

- 1 教育事業名 全国高校生体験活動顕彰制度  
「地域探究プログラム・オリエンテーション合宿 in とかしき」
- 2 ね ら い 探究学習の手法を取り入れ、宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、“離島”というフィールドを課題対象とした「地域課題の探究方法（実践活動を含む。）」を学習し、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付けるカリキュラムを実施する。
- 3 期 日 令和6年7月13日（土）～7月15日（月） 2泊3日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 日本在住の高校生及びそれに相応する学籍又は年齢にあるもの 8名
- 6 参加人数 11名
- 7 参加者内訳 男子6名、女子5名（高校3年生7名、高校2年生3名、高校1年生1名）
- 8 講 師 古波蔵 善之介 氏（渡嘉敷村商工会会長・とかしくマリナビレッジ社長）
- 9 実施プログラム

7/13 (土)	8:00	8:15	9:30	10:00	11:30	12:00	13:00	14:00	16:30	18:00	19:00	20:30	22:00	
	会議室 とまりん2F 集合・受付	ガイダンス	乗船	フェリーと とかしき	移動	昼食	講話 「地域づくりの 実践」	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」	フリータイム	夕食	講義・演習① 「地域理解」	入浴	就寝	
7/14 (日)	6:00	7:00	7:40	9:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
	起床	つどい	朝食	フリータイム	講義・演習② 「課題解決の 基礎」	フィールドワーク② 「地域課題の 探究」	昼食	フィールド ワーク② 「地域課題の 探究」	フリー タイム	講義・演習③ 「地域課題の 探究」	夕食	発表 練習	入浴	フリー タイム
7/15 (月)	6:00	7:00	7:40	8:45	9:00	10:00	12:00	13:00	14:00	15:00	15:30	16:00	17:10	
	起床・ 清掃	つどい	朝食	清掃 チェック	発表 ①	講義・演習④ 「行動計画の 基礎」	昼食	発表②	実践活動 のための ガイダンス	エン ディング	移動・ 乗船	フェリー とかしき	泊港 着・解 散	

10 事業の様子



地域づくりの実践



フィールドワーク①



フィールドワーク②（獣害）



フィールドワーク②（稲作）



グループワーク①



グループワーク②



グループワーク③



課題解決に向けての意見交換



修了証授与

## 11 エピソード(参加者の声、アンケートより)

### 【参加者(生徒)の声】

- ・最初は2泊3日の探究合宿がどうなるかが少し不安だったけど、個性豊かなみんなと話し合いができて、渡嘉敷島をまわって新しい視点を身につけることができたので、この探究合宿に参加できて本当によかったと思う。
- ・去年学校での探究活動を行ったが、先生主体であり良くなかった。しかしこの事業に参加してみると、自分たちが主体となって完成はうすかったとしても、自分たちの力で探究のプロセスを実行できたことは自分の自信や探究の仕方の理解へつながってよかった。
- ・地元にはいろいろな問題があり、それを解決するために多くの人が動いていることがわかりました。
- ・グループのみんなと意見交換できてよかった。また、ファシリテーターの方の援助が的確だった。
- ・この事業を通して自分を変えることができた。発表ができるようになり、自立に近づいた感じがした。

## 12 担当者所見

### (1) 成果

- ・全カリキュラムを通して取り組むことで、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付けることができた。
- ・全国高校生体験活動顕彰について知り、オリエンテーション合宿に望むにあたっての姿勢や視点を身につけ、高校生ならではの発想で取り組むことができた。
- ・ゆとりある日程を組むことで参加者同士の交流が進んだ。違う地域の同年代の参加者と寝食を共にしながら協働し直接関わることで、お互いの夢を語り合う等、SNS等では得られない刺激が成長に繋がった。
- ・探究の手法やプレゼンテーションに向けての取り組み方など、とても勉強になったという感想が多く、参加した高校生が有意義な活動を実感していた。
- ・地域との関わりをもつことができた。フィールドワーク時に参加者が積極的に質問することができたため、意見交換会に向けてのグループワークでは建設的に課題解決策を考えることができた。

### (2) 課題

- ・フィールドワークの際の参加者の移動手段が確保できないため、募集人数を増やすことが難しい現状があるが、少しでも募集人数を増やせるように工夫したい。
- ・講話の講師やフィールドワーク先の地元の方が次回も協力していただけるかが不透明なため、根気強く継続して交渉し、協力していただける人材を確保したい。
- ・地方ステージイベントにする参加者を毎年出せていない。オリエンテーション合宿終了後のサポートの方法を模索する必要がある。